

第2回苧田町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成27年12月14日(月)
開会 19:00 閉会 20:00

2 場 所 苧田町役場4階401会議室

3 出席者 苧田町長 吉廣 啓子
苧田町教育委員会
教育委員長 矢鳴 ミツ子
教育委員 野辺 寿一
教育委員 石邊 節雄
教育委員 尾形 由起子
教育長 森田 耕治
事務局関係
教育総務課長 恵良 四雄
生涯学習課長 川上 哲生
教育総務課次長 鱒淵 照子
教育総務課副課長 森 由美子
生涯学習課副課長 小野 剛史
生涯学習課係長 後郷 光彦
教育総務課 佐々木 一也

4 協議・調整事項
(1) 来年度予算案について

5 議事の概要

◇開会

森副課長

それでは、ただいまから平成27年度第2回総合教育会議を始めさせていただきます。最初に、町長より挨拶をお願いいたします。

◇あいさつ

吉廣町長

本日は皆様には大変お疲れのところ、総合教育会議にお集まり頂きましてありがとうございます。1回目の会議の際10月頃に2回目を開催したいと申し上げたのですが、諸事情でなかなか開催できなかったことをまずお詫び申し上げます。先般の教育委員会

で企画財政課長がご説明申し上げましたように、荊田町の財政状況は大変逼迫しております。7億～8億は削減をしないと予算が組めないのではないかとこの状態になっております。そのご事情等も企画財政課長からご説明を申し上げているのではないかと思います。そういった作業に追われておりました、なかなか2回目が開けなかったということでございます。

教育委員会の際に削減案についてもご提示をさせていただいたと思うのですが、私たちとしてはなるべく住民の負担は少なくということを考えております。教育総務課では、少人数、ALT、臨時職員等の削減・見直し、生涯学習課では、公民館講座の有料化、図書館の本購入経費の節約といったことをお願いし、1億を超える削減額をお願いしたところでございます。

大変厳しいものになっていることは重々承知しておりますし、住民の皆様にも教育委員会の皆様にも大変申し訳ないとは思っておりますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いを申し上げ挨拶とさせていただきます。

森副課長

ありがとうございました。次に教育委員会を代表いたしまして矢鳴委員長に挨拶をお願い致します。

矢鳴委員長

去る12日に行われましたかんだっ子教育の集いには、町長にも大変お忙しい中、最後までご覧頂きまして本当にありがとうございました。会場においでくださった皆様には、子ども達の姿や発表の内容などから教育改革がどのように進み、実際に学校でどのようなことが行われているのかというのを、見ていただくことによって色々なことを理解していただくことも出来たのではないかなと思っております。私は第1回目のときに参加いたしましたけれども、やはり11回の積み重ねの重みというのを感じているところです。

私も耳にするところでは来年度はどうなるのですか、という言葉聞くことがございます。これまでの11年間の積み重ね、これを活かしながら来年度からはどんなことができるのか、みんなの知恵を出し合って取り組みを継続していくということが本当に大切になってくるなと思っております。

新しい年度の計画が学校その他色々なところで始まるこの時期に、町長さんとこのような形で協議の場を得ることが出来たことは本当に意義あることだと思っております。

これからの子どもたちの教育そして町民の皆様方の様々な活動に対してより効果が上がってくることを考えていく、そういうこれからの取組におきまして是非実りのあるものになりますよう本日の協議会、改めましてそのことを願ひまして私の挨拶にさせて頂きたいと思っております。

◇協議・調整事項

森副課長

ありがとうございました。それでは、協議・調整事項の来年度予算案につきまして課長より説明させていただきます。

恵良課長 川上課長 来年度予算案 説明

森副課長

それではただいまご説明いたしました、来年度予算案につきまして、ご意見ご質問等がありましたらお願い致します。

石邊委員

これは教育委員会でも話し合いましたが、実際に学校支援員の3千万などが反映されているので、会議の結果を踏まえた回答だなということで私は仕方がないなと思います。

他に聞きたいことがたくさんあります。パンジープラザの補修費はどうするのかとか、それから温水プールは非常にお金がかかっている状態です。

吉廣町長

パンジープラザは3、4年前に、総体的な補修をかけたときの費用を調べたところ2億8千万ぐらいでした。今考えたら廃止して別の場所にコンパクトなものを建てた方が良かったのかなという感じがします。

石邊委員

私も全くその通りだと思います。

吉廣町長

そういったことも考えられますし、色々な施設の老朽化が始まりました。

図書館の話も出てきましたが、私も色々と見て回りました。荻田町と同規模の自治体で図書館を何館も持っているところは無いですね。中央に一つあればコミュニティバスも走っているから中央図書館まで行けます。あとは移動図書館車を使っているので、上手く利用すれば4館も必要無いのではないかと。4館もあるから本代がすごくかかっている。荻田町みたいに蔵書数が30万冊なんていうところはまず無いですね。4館あるから同じ本を4冊買わないといけないとか、そういう経費がかかったりしている。分館にも図書館員を置かないといけなくなっているの、そういう施設の統合廃止等の総体的な見直しがあると思います。

来年度中に公共施設の長寿命化等の見直しを全ておこなうということにして、今後の計画で何年後に何を建て直すとか何を統合するとかをしようということにしています。その結果を踏まえて、また教育委員会関係の施設についてもお諮りをするということに

なるかと思えます。

それから広域化ですね。一つの自治体で一つの施設を持つのではなく、市民会館みたいな1千人規模のものは行橋京都で一つあればいいのではないかと。そういうことがこれからの課題になってくるのではないかと。苅田町が今この状態に至るのは、全ての施設を単独で持っているから。他所はもう広域化をしているのに消防から給食センター、エコプラントなど。そこのあたりの見直しをしっかりとしないと、これはいつ考えてもパンク状態だろうということで、来年度中にそれを行うということにしています。それが出来ましたらご相談をさせていただきます。こういった小さな見直しではなくて大きな見直しになると思えます。

矢鳴委員長

厳しい苅田町の状況ですが、先ほど課長の方からお願いした色々なことがあるのですが、中でも私が気になっていることを説明させていただいてよろしいでしょうか。先ほど教育総務課のほうから出ました学校支援員分の3千万ですが、今のお話や金額の部分は苦しくなるという現状のところなのですが。子どもたちの今の状況と求められているものというのを考えたときに、これまで学校に少人数の先生や専科の先生など色々な先生方を配置して子ども達をどう育てていこうかということをもみんなで一生懸命に考えてやってきた。その中でとても厳しい状況になっているので、そこは私たち教育委員会もキチンと考え直さないといけないと思っています。やはり今の状況を見たら全部の先生方を配置する事は難しくなっておりますので、今回はこのようなお願いをさせていただいている。是非これからの苅田町の未来を、国を担っていく子どもたちということでお考え頂きたいなというお願いがあります。

近頃聞いた話の中に、大学生は将来的なものはある程度決まっているが、小学生や中学生のこどもたちはその時に色々な人が色々な働きかけをすることによってどんな風に変わっていくのかもわからないという可能性を秘めている。本当に厳しい中でとても難しくなっているところと思うのですが、是非この分につきましては多く皆様方のご理解がいただけるように是非ご検討のほうをよろしくお願ひしたいと私は強く思っているところです。

吉廣町長

教育の難しさは、これだけお金を掛けたからこれだけ良くなったとかということが説明できないところにありますよね。費用対効果が見えてこないところがあるのですが、今言われたように、子どもが将来どう育ったかということに大きく表れてくるでしょうし、正直申し上げて私は間違っていたとは思わない、そういうことがあったから苅田町に住みたいという人もかなりいたと思うのです。私が就任した頃は人口34,680人ぐらいでした、現在が36,200人程度で約2千人近く増えてきている。ということはそういう子育て支援や教育支援の効果が左右していたと思うのです。だから本当は出来ることならその辺りはあまり削りたくないと思っているのですが、議会とかの話の聞くとそれが

どういう風にこれだけのお金を使ってどういう効果が出ているのか、というご指摘をいただいているところです。大変難しいしこういう風にした場合にどういうことが起こるのかということも図りかねるところがあるのですが。私としては教育・人材育成はとても大事で、教育に対する情熱は変わってないのですが。こういった厳しい予算の中で、皆さんがどうやって知恵を出し合って創意工夫をして軽重をつけてくれるか。もうそこに期待するしかないという結果で大変申し訳ないのですが、出来るだけの支援はしていきたいとは思っております。

少し景気が良くなると工場等から何億と税収が入って来たりするから、荻田町の財政自体見通しが難しい。今のところであてにならないことを見込んでするわけにはいかないので現状を見て考査して頂く。取りあえずここ1、2年を乗り切らないと大変だということをお願いさせていただいているということで、よろしくお願ひします。

石邊委員

学校支援の3千万は、もらっても5,700万カットされるのですからね。矢鳴委員長が言われたのは3千万では足りないという意味で言われたのかなと思った。3千万いただきたいと言っているが結局5,700万削られているから。

矢鳴委員長

多いに越したことはないですけど、そこまでは申しません。

吉廣町長

とにかく教育委員会としてはこういった予算組みでご理解頂いたら助かるなというところです。

矢鳴委員長

荻田町には色々な学校が沢山ありますよね。現在でも片島小学校、白川小学校が西工大の学生さんとか戸早学園の学生さんにボランティアとして来て頂いているという話は聞いています。

これは西工大の学園祭のときにわくわく科学教室 2015 というのがあっていましたので、どんな様子かなと思って見に行ったのですが。それぞれ12ぐらいコーナーがあったと思うのですが、学生さんたちで子ども達が興味を持つような色々な実験を一緒になってやっている。厳しい予算の中、皆が色々なところで知恵を出してやっている。

吉廣町長

いつも良い例ですねと言われるのが駅のイルミネーションです。あの規模をするとすると300万、500万必要なのです。最初に企画したときにその金額を言われてビックリしたのですが今は100万円足らずで力を出し合って西工大の情報課の皆様がデザインしてくださって、荻工の生徒さんが技術的に配線を繋いでくださってとか、あれだけ豪華

なものが安く出来ているというのが一番良い例じゃないかと思います。そういう知恵を今こそ皆で色々考えていかないといけないかなと。

そういった西工大さんも夏休みを利用して子どもの力をつけることを考えてくださるとありがたいなと思います。西工大さんも大いに利用してくださいとおっしゃっていました。逆にこれを転機にしていいものが出来ないとも限らない。皆が知恵を出し合ってお金を使わずにやれる方法を考えようという風が起こってくるとより良いものになるかもしれません。

今申し上げましたように、教育委員会にお願いしたらこれだけの協力をしていただけるということなのですが。そこら辺はまた次回の総合教育会議のときにご提示しながら調整を図っていかないといけないかなということをおもっています。

荻田町は不交付団体だからといった利点は無いですけど、やはり県下唯一の不交付団体だというプライドがありますよね。

石邊委員

荻田町はこれぐらいやっている。他の市町村も同じようにしようというのが地方交付税の理念じゃないですか。

吉廣町長

荻田町も近隣市町村並みにしかサービスが出来ない。それ以上するとパンクしちゃうという状態ですね。

石邊委員

ただ、荻田町がリードして行って町はこうあるべきだ、行政はこうあるべきだというリーダーシップは示すべきですよ。

野辺委員

今までがそれだけお金を掛けていたから、町民全体もそれがだんだん減っていくとその反動というのは大きくなるわけです。そこにどうやって耐えていけるかというのは相当なエネルギーがいると思います。だからそれなりの覚悟をしていかない。町自体が他の自治体と違って地方交付税を受けていないというプライドは持ち続けて、リーダーシップをとっていかないといけないと思います。そうしないと荻田町に住んで何が良いのかと言われるのでは。

石邊委員

少子化対策で住民を5万まで増やして市まで持っていきたいという対策だから。メリットとしてゴミ袋の無料だとか、荻田町の目的が人口を増やすという施策であるのなら荻田町のメリットとしてはゴミ袋代2千万ぐらい行政からしたら大した金額ではないと思う。これなら荻田町より土地代が安い市町に行きますよ。

野辺委員

苧田町というのは人口が増えてきていますが、環境視点を踏まえてどこまで広げられるのか、人口何万ではどういう生活状態が町民は出来るのかというのをしないと。

石邊委員

それはもうグランドデザイン出来上がっていますよ。

野辺委員

それが出来上がっているのなら、未来に開く苧田町としてそこに向かってどんなことをステップとしてやっていかないといけないのかというのが、多分決められていると思うのですが。本来苧田町に住みたくても、周りと比べて土地が高い。そうやってみると、土地をどこまで増やせるのかというのを考えてそこに行政財政を入れていかないといけないと思う。

今度の教育予算で1億弱の削減がありましたけど。企画財政課長が説明されたときに教育というのは即投資対効果を求められても、空気みたいなものなので空気がなくなると苦しく、あるときにはなんら感じない。だけど今回は、継続は力なりということで私たちのある程度のところは組み込んでいただいているのですよね。

だからこの中を見ても全部が白紙になっているわけではないのですよね。何らかの形で、少しずつの形ではありますけど継続されているのです。ベースが残っていればいつかはまたこうやって考察出来るわけでこれが大切だと思います。

吉廣町長

今後どうやって持続可能な町にしていくかという見直しを、さっき言われたゼロベースですべき。このままどんどん膨らんでいくことは出来ない時期が来た。だから今の時代にあった、子育てに力をいれる新たな政策を一ついれるとしたら、どこか従来やっていたものを削らないといけない。それが苧田町はどんどん足して増えていくばかりで削ってきていないわけです。分かりやすい例であげるなら、水道料金が10年以上変わっていない。やはり3年に1度ぐらいは見直して小刻みに上げたり下げたりしていると良いのですが。政治的なことに随分左右されてきたが、これからはそういうことは抜きに毎年3年に1回は料金を見直そうという話をしています。

石邊委員

5年に1回社会情勢等を考えて見直すという一項を、きちんと決めておいてルールをつくらないといけない。そうしないといつするとか決めてなかったら変えられないですよ。どこの組織もそれを始めてきていると思います。

吉廣町長

困ったら見直すのではなく、困っていないときでも見直すとして、そういうルールを検討中です。荻田町はそこまで追い詰められていなかったから、お金が無いといっても財調もあるわけですし、そこまで他所以下に落とす必要は無いのですが、そういうことを反省する良い時期にきたかなと思い頑張らなければと思っています。

森副課長

何かご質問・ご意見等はございませんか。それでは来年度予算案につきましては協議調整ができたということによろしいですか。町長、よろしくお願いします。

吉廣町長

教育に関係無いことも少しお話させていただきましたが、現時点ではこのような形で予算案を議会に上程させて頂きたいと思います。議会の考えもありますので、どうかというのはまた改めて新年度に入りましたら調整の会を持ちたいと思いますので、よろしくお願い致します。本当にご協力ありがとうございます。

◇開会

森副課長

以上をもちまして、第2回の総合教育会議を終了させていただきます。

一同

ありがとうございました。